



CEReS

News Letter No. 72

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング
研究センターニュース 2011年11月
(本号の編集担当：近藤昭彦)
発行：環境リモートセンシング研究センター
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

◆中国科学院楽城農業生態系統試験站 30周年記念式典参加報告



CEReS 発足当初に重点課題として設定した「衛星観測によるアジアにおける環境変動地域のモニタリング」の一環として当時のRS/GIS 応用研究グループは「中国、華北平原における水問題」を設定した。1996年に中国科学院の劉昌明院士を招聘し、1997年から中国科学院石家庄農業現代化研究所をベースに華北平原における調査研究を開始したが、楽城農業生態系統試験站はその中心的な実験施設である。石家庄市街地の郊外に広大な圃場と観測タワー、実験棟、宿泊施設を持ち、中国科学院の共同利用施設として多くの研究成果を挙げてきたが、今年で30周年を迎えることとなった。式典は10月21日に行われ、近藤が招待され祝辞を述べた。研究を始めたばかりの頃の写真を紹介しながら思い出を語ったが、新しくできた実験施設のパンフレットに偶然同じ写真が使われており、そこに共通の思いを感じながら今後の関係の深化を願った。式典の終わりに集合写真を撮影したが、この中の5人が千葉大学の修了生である。CEReSで博士課程を過ごした沈彦俊教授は式典の実行委員として重責を担っていた。皆、大学や研究所で研究者として活躍しているが、千葉大学及びCEReSにおける人材育成も新たなフェーズに入ったことを実感させる。[近藤]

◆新疆師範大学訪問



10月24日に新疆師範大学を訪問した。熱烈歓迎を受け、客座教授の称号を頂いた。CEReSでは建石教授に続き二人目である。千葉大学とは大学間交流協定を締結しており、CEReSで学位を取得した二名がすでに教員として勤めている。今後、学生の受け入れ等を通じた交流を進める予定である。[近藤]

◆市民講座・シンポジウムの記録

- ・タウンミーティング「水から学ぶ健康の泉―被災・被爆編―」
平成23年10月28日(金) 市川教育会館
主催：NPO 法人千葉健康づくり研究ネットワーク
後援：公益財団法人とうきゅう環境財団
講演者：近藤昭彦

- ・野田市中央公民館主催講座「地球の変動を探るー宇宙から見た地球の変化ー」

平成23年11月30日

主催：野田市中央公民館

講演者：近藤昭彦

- ・震災復興支援シンポジウム～復興に向けて、千葉大学ができること～

日時：平成23年11月14日（月）15：00～17：00

場所：千葉大学けやき会館大ホール

講演者：近藤昭彦

福島放射能汚染地域に関する講演を行った。原発事故が引き起こした災禍からの復興は、環境および災害に関わる研究者として“社会のための科学”（世界科学会議、ブダペスト宣言より）の実現を達成するための喫緊の課題である。まさに科学の役割が今問われているといえる。千葉大学ではCEReS、園芸学研究科、薬学研究院の有志で福島支援チームを結成した。特に計画的避難区域となっている川俣町山木屋地区ではかつて農業インターンシップを通じた千葉大学との交流があったことより地域と協働して様々な活動を行ってきた。原発事故後7ヶ月間で見たこと、やったこと、感じたこと、そして未来に対する希望を講演で語った。



この写真は今年作付けがなされなかった山木屋地区の水田である（8月撮影）。本来ならば青々とした稲穂が広がる時期であったが、雑草が生い茂るばかりで、水路にも水は流れていない。人の故郷を取り戻すためには、復興の実現の達成を共有した科学者も含むグループの協働を輪を作ること、その中で科学者は科学者としての役割を果たすという意識を持つことが大切である。[近藤]

◆千葉市市民講座開催（千葉市科学館・千葉大学連携企画）

千葉市科学フェスタ 2011 サテライトイベントの一環として、千葉市科学館と千葉大学との連携企画のもと、西千葉キャンパス内の3センター見学が11月に開催されました。その第一弾としまして、11月5日（土）に環境リモートセンシング研究センター（CEReS）の見学会と講演を行いました。

当日は多くの市民の方にご参加いただき、近藤教授による「震災と CEReS ー福島を忘れない」、ヨサファット准教授による「千葉大学から宇宙へ」の二講演を行い、センター見学として、電波無響室・植生計測ヘリ・ライダー等のセンターを代表する設備の一部を見ていただきました。

今回、“最先端の研究に触れるチャンス！”と銘打って、このような企画を催すことができ、皆様にセンターの存在、その必要性や使命をご理解いただける良い機会に恵まれましたことに感謝いたします。人工衛星による観測は、いま、地球を知るために不可欠なツールになっており、本センターでは、リモートセンシングを利用したさまざまな環境研究を進めています。これからも、CEReS として社会にお役にたてることは何か、を追求しつつ研究してまいります。[CEReS 広報委員会]